

## 令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立姿川中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

令和3年5月27日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語 242人

② 数学 242人

#### 5 留意事項

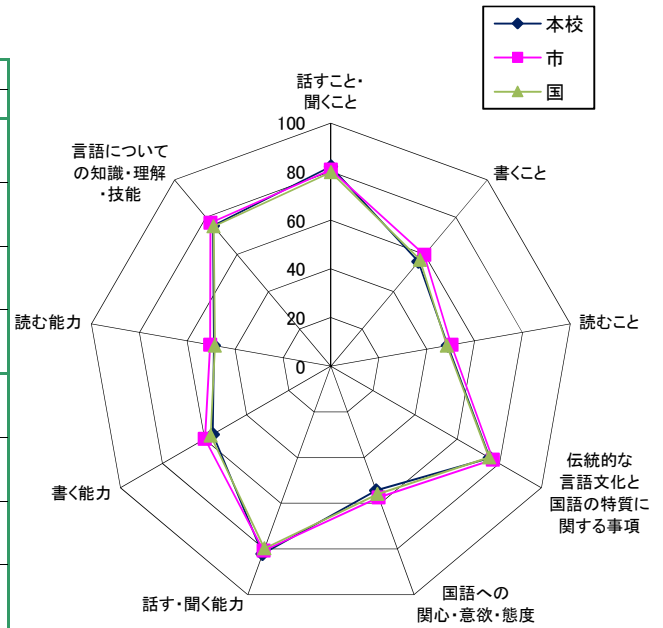
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、  
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立姿川中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	82.1	80.8	79.8
	書くこと	56.1	59.8	57.1
	読むこと	48.9	50.4	48.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.5	77.0	75.1
観点	国語への関心・意欲・態度	54.4	57.5	56.0
	話す・聞く能力	82.1	80.8	79.8
	書く能力	56.1	59.8	57.1
	読む能力	48.9	50.4	48.5
	言語についての知識・理解・技能	75.5	77.0	75.1



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

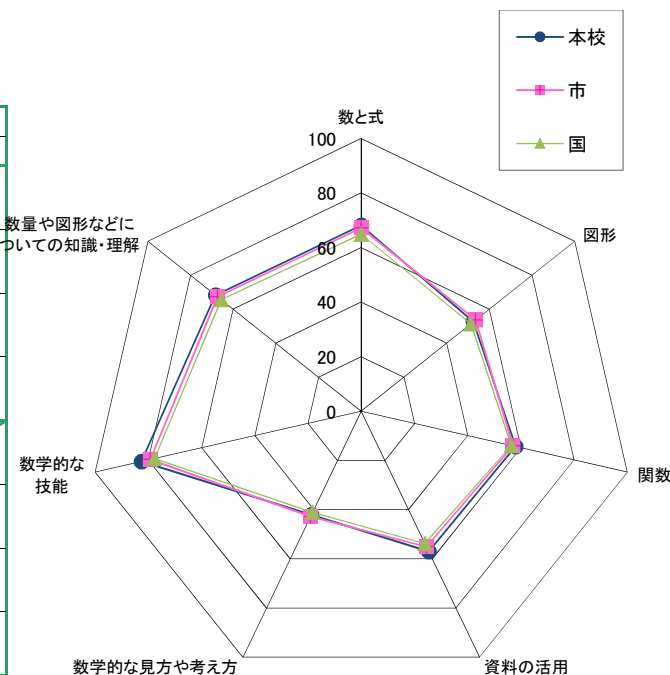
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は82.1%であり、全国平均を2.3ポイント上回っている。</p> <p>○「質問の意図を捉える」選択式の問題では、全国平均を2.5ポイント上回った。</p> <p>●「話合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える」という記述式の問題では、無回答率が4.1ポイントと全国平均を0.7ポイント上回っており、自分の考えを文字にすることに苦手意識があると考えられる。</p>	<p>無回答率の高さから、話の流れを理解して自分の考えを形成することに課題があると言える。話合い活動を通して、自分の考えを根拠を基に伝え合い学び合う学習を取り入れていく。</p>
書くこと	<p>平均正答率は56.1%であり、全国平均を1.0ポイント下回っている。</p> <p>○「伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く」問題では、条件を全て満たして書けている解答は、全国平均を3.4ポイント上回っている。</p> <p>●すべての問題において無回答率が高い。特に「伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く」問題では、無回答率が全国平均を5.2ポイント上回っている。</p>	<p>全体的にも、問題ごとにも、全国と宇都宮市の平均を下回っている。特に、記述式の問題では、無回答率が格段に高い。各单元ごとに「書くこと」の課題を設定するとともに、日常的に自分の考えを言葉にして正確に伝えることができるように、繰り返し文章を書く練習を取り入れていく。</p>
読むこと	<p>平均正答率は48.9%であり、全国平均とほぼ同じである。</p> <p>○「文脈の中における語句の意味を理解する」選択式の問題では、全国平均を5.9ポイント上回っている。</p> <p>●「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えを持つ」記述式の問題では、全国平均を6.0ポイント下回っている。</p>	<p>文章に対して自分の考えを根拠を基に記述できるような課題を設定し、内容を深く理解できるようにしていく必要がある。また、物語的文章を読解する際には、場面の展開や情景描写から人物の心情を読み取っていく能力を養っていく。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>平均正答率は75.5%であり、全国平均とほぼ同じである。</p> <p>○漢字の意味を正しく読む問題や、敬語を正しく使う問題では、全国平均を上回っている。</p> <p>●「事象や行為などを表す多様な語句について理解する」問題では、全国平均を3.3ポイント下回っている。</p>	<p>基本的な言語事項については、よくできている。今後は語彙を増やすために、授業中に意味を調べる時間を作ったり、意図的に例文を書かせたりするなど、意味を理解する時間を増やしていく。</p>

# 宇都宮市立姿川中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	68.1	67.2	64.9
	図形	52.6	53.6	51.4
	関数	58.0	57.0	56.4
	資料の活用	57.0	55.1	53.8
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	42.1	42.8	41.1
	数学的な技能	82.6	79.3	77.7
	数量や図形などについての知識・理解	68.3	67.4	65.6



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>平均正答率は68.1%であり、全国平均を3.2ポイント上回っている。</p> <p>○文字式を利用して説明をする問題では、全国平均を7.3ポイント上回り、数学的な考え方を論理的に説明する力を高める機会を増やした成果であると考えられる。</p> <p>●目的に応じて式を変形し事柄成り立つ理由を説明する問題では、全国平均を2.3ポイント下回っている。基本問題はできるが、発展問題になると正答率が下がる傾向は、中間層の生徒に課題があると考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな数を文字式で表す練習を重点的に行う。</li> <li>・基礎的な文字式で説明する問題を形式的に練習する機会を増やし、論理的に説明する力を身に付けていく。</li> </ul>
図形	<p>平均正答率は52.6%であり、市平均を1.0ポイント下回っている。</p> <p>○おうぎ形の弧の長さを選択する問題では、全国平均を5.0ポイント上回り、おうぎ形の中心角と弧の長さや面積との関係について理解している。</p> <p>●平行四辺形になるための条件を用いて四角形が平行四辺形になることこの理由を説明する問題では、全国平均を1.3ポイント下回っている。平行四辺形になるための条件を理解することとそれを使って説明する力に課題が見られた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無回答生徒の割合が34.7%であり、全国平均の28.7%に比べると大きな差が見られることがわかる。説明する問題に抵抗を感じている生徒が多いため、基本的な問題を中心に説明を書く機会を増やし、自分の考えをきちんと文章化する態度を身に付けさせていく。</li> <li>・何を書いたらよいか分からない生徒が多いため、まず何を書くかなど丁寧に説明し、必要な構成をきちんと理解させていく。</li> </ul>
関数	<p>平均正答率は58.0%であり、全国平均を1.6ポイント上回っている。</p> <p>○与えられたグラフや表から必要な情報を読み取る問題では、全国平均を3.2ポイント上回り、グラフ上の座標の意味を理解している生徒が多いことがわかる。</p> <p>●全国や市の平均に比べて、正答率の低い問題はなかったが、身の回りの数を関数(比例)と見なして、その解き方を説明する問題では、正答率が28.9%と低かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りの数をどんな関数とみなすのか、<math>x</math>の値、<math>y</math>の値、変化の割合、比例定数などがどの数にあてはまるのかをきちんと整理する力を身に付けさせていく。</li> <li>・変化の割合や増加量など形式的に解き方を覚えて解いている生徒が多い。それぞれ関数の用語が何を表しているかやなぜこのように求めるのかを丁寧に指導していく。</li> </ul>
資料の活用	<p>平均正答率は57.0%であり、全国平均を3.2ポイント上回っている。</p> <p>○与えられたデータから中央値を求める問題では、全国平均を6.8ポイント上回り、代表値について理解している生徒が多いことがわかる。</p> <p>●データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題では、全国平均を0.8ポイント下回り、数学的に説明する力に課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフなどのデータから、傾向を分析し説明する力を身に付けさせるため、形式的な問題を解くだけでなく、データに対しグループ学習にて様々な角度で分析し、学習した数学的な用語を使って発表する機会を設けていく。</li> </ul>

## 宇都宮市立姿川中学校 第3学年 生徒質問紙

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、よいところがあると思いますか。」の質問に「当てはまる」と回答した生徒の割合は44.4%であり、全国平均を9.9ポイント、県平均を7.4ポイント上回っている。肯定的回答でも82.3%と全国平均、県平均を上回っており、生徒が自己肯定感を持って生活していることが分かる。これは、本校の重点目標である自己肯定感や自己有用感を育てる活動の推進、「認めて・褒めて・励まして」の3指導の実践が成果をあげている証拠である。今後も教職員一丸となって、この指導の実践を続けていくことが大切である。

○「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。」の質問に、肯定的な回答をした生徒の割合は74.9%であり、全国平均を9.0ポイント、県平均を4.4ポイント上回っている。これは、学校の教育目標である「拓く心」に基づいた教育活動により、チャレンジ精神が醸成されていることがうかがえる。

○「人が困っているときは、進んで助けていますか。」の質問に「当てはまる」と回答した生徒の割合は49.8%であり、全国平均を8.2ポイント、県平均を1.1ポイント上回っている。また、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」の質問に「当てはまる」と回答をした生徒の割合は86.8%であり、全国平均を5.4ポイント、県平均を0.8ポイント上回っている。この結果から、道徳や特別活動を通じて思いやりのある生徒が着実に育っていることがうかがえる。

○「あなたは学校で、コンピューターなどのICT機器を、他の生徒と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか。」の質問に「週1回以上」と回答した生徒の割合は、63.0%であり、全国平均より28.2ポイント、県平均より23.4ポイント上回っている。今年度当初から本校が取り組んできた「SUGAスクール」の取組の成果が見られる。今後もchromebookやICT機器を活用した学習の充実を継続する。

●「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか。」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は84.0%であるが、これは県平均を3.4ポイント下回っている。引き続き、チャレンジ精神とともに粘り強く取り組む力を育成する指導に力を入れていきたい。

## 宇都宮市立姿川中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
生徒が主体的に学び、確かな学力を身に付けるための学習指導の改善・充実	「宇都宮モデル」を活用し、授業では本時の目標を提示し、めあてを達成するための効果的な指導法を工夫している。また、本時の学びを振り返らせ、自己の変容の自覚を図る活動を行っている。 毎週水曜日をチャレンジデーとして、帰りの会で小テストを行い、間違えた問題のやり直しをするなど、基礎的事項の定着を図っている。 ICTを効果的に活用した授業・活動を推進している。	「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていたか」の質問に肯定的に回答した生徒の割合は68.3%で、県平均より3.7ポイント全国平均より8.8ポイント上回っている。 「あなたは学校で、コンピューターなどのICT機器を、他の生徒と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用しているか」の質問に、「週1回以上」と回答した生徒の割合は63.0%であり、県平均より23.4ポイント全国平均より28.2ポイント上回っている。
思考力・判断力・表現力を高めるための授業の工夫	「話し合い活動」「学び合い活動」の授業実践、「発表させる場の設定」を通して、生徒が自ら考え、表現する能力を高められるよう指導している。	「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたか」の質問に肯定的に回答した生徒の割合は68.3%で、県平均より3.1ポイント全国平均より6.3ポイント上回っている。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	「家庭学習の手引き」を配付し、自主学习ノートを毎日提出するように指導している。また、「学習日より」での啓発やベストノートを掲示することで、より効果的な学習の仕方について、意識を高められるよう指導している。 定期テスト前に「授業・家庭学習強化週間」を設定し、学習計画表を作成させ、学習時間を意識した家庭学習ができるように指導している。	「家で自分で計画を立てて勉強している」の質問に肯定的に回答した生徒の割合は67.9%で、県平均より0.6ポイント下回り、全国平均より4.4ポイント上回っている。 「平日の1日当たりの学習時間」は、「2時間以上」と答えた生徒の割合は41.5%で、県平均や全国平均と同程度である。「土・日曜日の1日当たりの学習時間」は、「2時間以上」と答えた生徒の割合は59.6%で、県より0.5ポイント、全国より6.1ポイント上回り、4時間以上と答えた生徒が10.3%である。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「平日、1日当たりの読書時間」について、30分以上と答えた生徒の割合は22.2%で、県平均より9.1ポイント、全国平均より6.7ポイント下回っている。また、国語で読む力をみる記述式の問題で、全国平均を6ポイント下回っているものがある。	読解力を高める指導の工夫	校内読書週間において委員会活動ともタイアップし、読書の呼びかけや本の紹介などを行う。 学級文庫の充実、貸出ワゴンサービスなど、学校図書館を活用させ、朝の読書の時間を充実させるようにする。日々の読書量を増やし、問題を読み取る力を高めさせるとともに自分の言葉で表現する活動を意識して取り入れていく。